



秋山孝が選んだ30の金言
高田清太郎の建築デザイン哲学展

30 Golden Sayings
Seitaro Takada's Architectural Design Philosophy

目次

- 03 | 「秋山孝が選んだ30の金言・高田清太郎の建築デザイン哲学展」開催にあたって 秋山孝
- 04 | 高田清太郎30の金言1(建築1)
- 06 | 高田清太郎30の金言2(建築2)
- 08 | 高田清太郎30の金言3(建築3)
- 10 | 高田清太郎30の金言4(建築4)
- 12 | 高田清太郎30の金言5(建築5)
- 14 | 高田清太郎30の金言6(建築6)
- 16 | 高田清太郎30の金言7(建築7)
- 18 | 高田清太郎30の金言8(建築8)
- 20 | 高田清太郎30の金言9(建築9)
- 22 | 高田清太郎30の金言10(建築10)
- 24 | 高田清太郎30の金言11(建築--雪1)
- 26 | 高田清太郎30の金言12(建築--雪2)
- 28 | 高田清太郎30の金言13(建築--雪3)
- 30 | 高田清太郎30の金言14(建築--雪4)
- 32 | 高田清太郎30の金言15(建築--雪5)
- 34 | 高田清太郎30の金言16(建築--雪6)
- 36 | 高田清太郎30の金言17(建築--雪7)
- 38 | 高田清太郎30の金言18(建築--雪8)
- 40 | 高田清太郎30の金言19(建築--雪9)
- 42 | 高田清太郎30の金言20(人生1)
- 44 | 高田清太郎30の金言21(人生2)
- 46 | 高田清太郎30の金言22(人生3)
- 48 | 高田清太郎30の金言23(人生4)
- 50 | 高田清太郎30の金言24(人生5)
- 52 | 高田清太郎30の金言25(人生6)
- 54 | 高田清太郎30の金言26(人生7)
- 56 | 高田清太郎30の金言27(人生8)
- 58 | 高田清太郎30の金言28(人生9)
- 60 | 高田清太郎30の金言29(人生10)
- 62 | 高田清太郎30の金言30(人生11)
- 64 | 高田清太郎略歴、奥付け

30 Golden Sayings
Seitaro Takada's Architectural Design Philosophy
2013.04.20sat - 05.25sat
Takashi Akiyama Poster Museum Nagaoka





「秋山孝が選んだ30の金言・高田清太郎の建築デザイン哲学展」開催にあたって

秋山 孝 秋山孝ポスター美術館長岡・館長、多摩美術大学・教授

秋山孝ポスター美術館長岡(APM)は、ポスター美術館である。ポスターは、一枚の大きな紙に絵と文字でメッセージを伝える芸術だ。そこには、感動させる力があり他の美術とは異なる魅力がある。なんでもありの芸術ではなくポスターという枠組みから外れることはない。そこで、「秋山孝が選んだ30の金言・高田清太郎の建築デザイン哲学展」を開催する。

ポスターの要素にはわずかな紙面に的確な形と色彩と文字でデザインするが建築デザインと酷似する厳しい思考と思索するデザインの共通項がある。その考える過程は、全く同じだ。想像してほしい、建築図面は、ぼくから見ればまるでポスターよりも美しくその美的構造が見え隠れすると感動と喜びにうち震えるのだ。そこには、困難で不可能な課題を克服した発想に満ちあふれている。たった一枚の紙面のなかで語りかけるメッセージは、はかり知れない。どの細部を見ても完璧で考え抜かれている。もし、それがいい加減で中途半端なものが見えてくると一瞬でしらけて紙以下になってしまうのだ。それを乗り越えて出来上がったものは我々に幸福感と達成感を与えてくれる。

高田清太郎は、言葉の人である。「言葉には力がある」と信じている。だから、誰よりも多弁だ。寡黙の美意識は微塵も感じられない。ぼくもそうだからよく理解できる。なにしろ言い切らないと納得がいかない。ということは、どんなに話しても終わりが無いということだ。終わりがあるとすれば、ただ死あるのみかもしれない。ぼくは、なんとか高田清太郎というひとりの人間を知りたいし、心の奥深くにある哲学を発見したいと思っていたのである。表面的な言葉は悲しいし、適当な会話の時間的連続はもつと虚しい。だから長時間かけての観察と思索と洞察は最も重要で、ぼくの創作の基本にしている。やっとその機会がやってきた。なんとか高田清太郎の答えが出てきそうだと閃いた。それが「秋山孝が選んだ30の金言・高田清太郎の建築デザイン哲学展」だ。

ポスターは、一つの言葉と一つの図像で成立する。いとも簡単に思うかもしれないが、それは困難を極める。つまり、一つが完全で完璧でなければならない。その完璧な一つどうしの組み合わせの結果それ以上の完璧さが要求される。そうでなければ組み合わせの驚きも感動も生まれないのである。いったい高田清太郎は誰か、あるいは何者か。とういところに言及しなければならない。そこでぼくは、ポスターの条件「文字と図像」の言葉(文字)からはじめた。高田清太郎の言葉から「金言」にあたる一言の収集作業に入ることにした。輝き響き渡る「高田清太郎の金言」をだ。それは、借りた言葉でもなく心の深遠さに裏打ちされたものでなければならない。その条件は厳し過ぎるが、ここをいい加減にするとただ軽薄な結果が待っている。ひとことの金言と一枚の図像(図面、建築写真、立体模型)からより選び抜かれた組み合わせ、それは絶対である。必要のない補いに頼ることはしてはならない。表現者の唯一のモラルなのである。高田清太郎の心の叫びを厳粛に聞かなければならない。そこには、「真実と美」に満ちているはずに違いない。

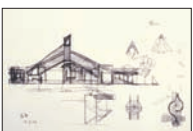


1983年頃
大径木を製材する前の木取りの検討会。
製材士の室橋繁一氏(左)、タカモク会長の高田清作(右)



2011年8月24日
日本建築学会大会会場・早稲田大学・大隈重信像前にて
賞状を手にする秋山孝(左)、高田清太郎(右)

如何に建築が立地条件に左右されるかを今更ながらに垣間見た思いがする。



[タイトル]-----長岡ルーテルキリスト教会(ゆきん子ペンギン教会)
[建設地]-----新潟県長岡市三和町
[竣工年]-----1992年
[構造]-----木造2階建
[規模・面積]-----299.92㎡
[主要用途]-----礼拝堂

1992年に建てられた長岡ルーテルキリスト教会。初めて設計に携わる教会建築であった。キリスト教会は全世界に建立されているが、雪国長岡にはその土地の持つ記憶をデザイン化したものである。デザインモチーフは雪袈裟を纏った可愛い雪ん子である。+ペンギンをモチーフに加えた。

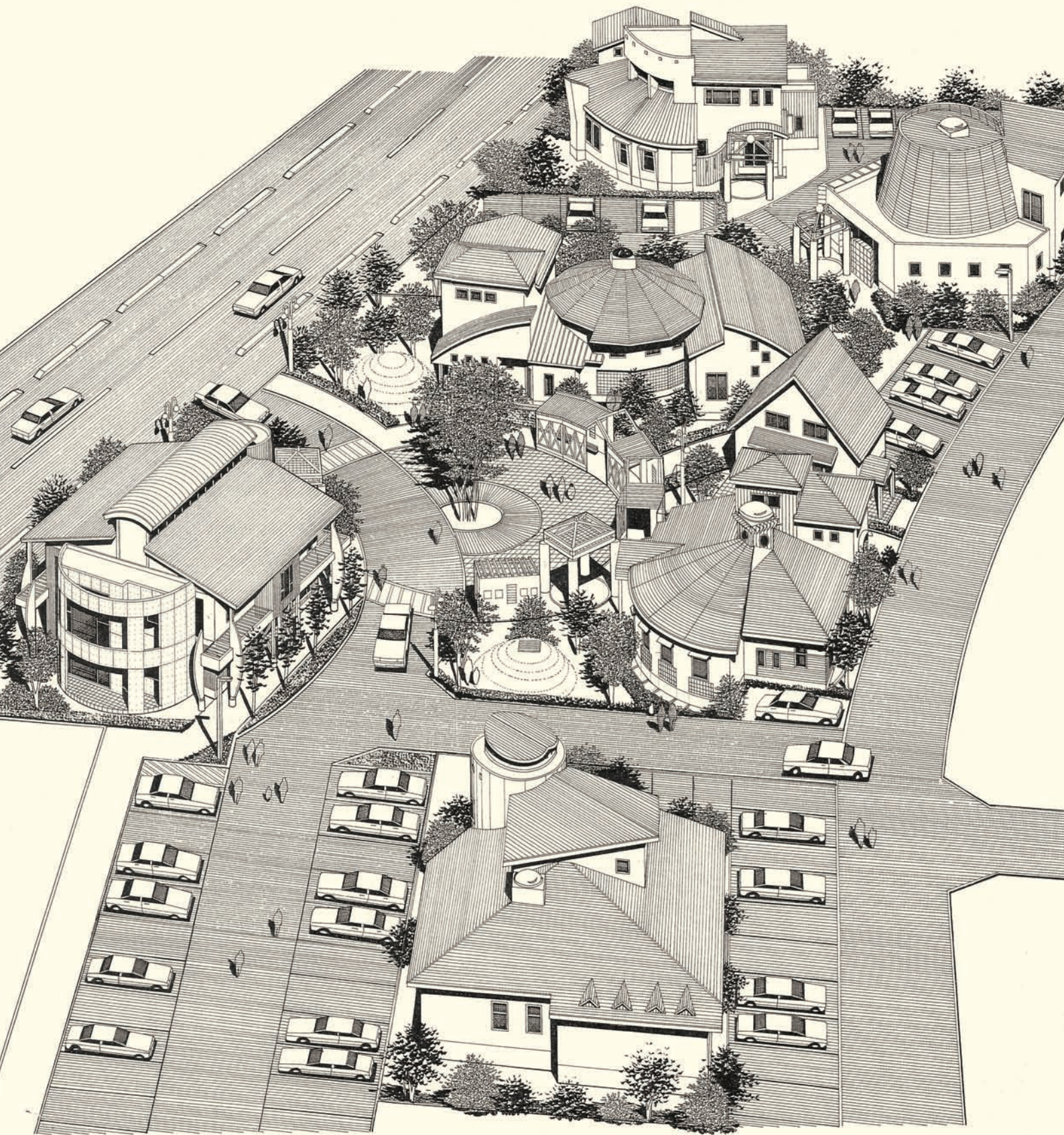


空を舞う鳥になったような錯覚に襲われることだろう。



[タイトル]-----ミトロの森 間知づくりプロジェクト
[建設地]-----新潟県見附市柳橋町
[竣工年]-----2000年～2008年
[構造]-----木造2階建
[規模・面積]-----165㎡～270㎡
[主要用途]-----整形外科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、内科、調剤薬局

建築家(設計者)は様々な表現手法を用いて建築を実現させるのである。図面しかり、模型しかり。パースしかり。元々鳥瞰図の一種であるアイソメ・アクソメは二次元のキャンパスに3次元を表現する最も良い手法の一つである。そのまま舞う鳥から見た立体面である。設計者は、プランニングをしながら、ゾーニングの中に一筋の線を描き始める。まるで空飛ぶ鳥のような視覚である(錯覚である)。毎年一棟ずつ建築されたミトロの森は5診療科クリニックと調剤薬局から成り立っている。これが間知(まち)づくりの始まりである。



力の流れが作るリズム感で心の高揚感を生み出す。

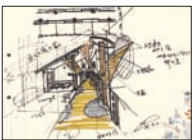


[タイトル]-----高田建築事務所設計室(巢舞る工房モクード)
[建設地]-----新潟県長岡市摂田屋
[竣工年]-----1994年
[構造]-----1階RC、2階木造ハイブリッド構造(車輪型張弦梁)
[規模・面積]-----495.4㎡
[主要用途]-----オフィス

1994年完成した弊社設計室「モクード(木+Woodからなる造語)」。力の流れの木構造をそのままデザインとして表出させる。7K×7Kの車輪工法の上弦材(木)はコンプレッションと下弦材(鉄)はテンションがバランスよく配置されている。中央リングは、それらのテンションとコンプレッションの力の流れが緊張感を醸し出してくれる。



楽しい空間を如何に作り込んでいくかを真正面から取り組んだ。



[タイトル]-----田宮病院精神科病棟第八病棟(ホスピデンス)
[建設地]-----新潟県長岡市深沢町
[竣工年]-----1996年
[構造]-----鉄筋コンクリート造2階建
[規模・面積]-----2669.61㎡
[主要用途]-----病院

1996年に竣工した田宮病院精神科第8病棟。初めての病院建築である。精神科の歴史は囚院から僧院、そして病院、これからは健院へ！コンセプトは病院から住宅へ！そのまま「ホスピデンス (Hospital+Residence=Hospidence)」とネーミングされる。



「老人から豊人へ!」「老人福祉施設から豊人福祉施設へ!」いつか、きっと、看板の架け替えが必要とされることだろう。



[タイトル]-----高齢者福祉センター(健康の駅なおか)
[建設地]-----新潟県長岡市信濃町
[竣工年]-----2005年
[構造]-----RC造、5階建
[規模・面積]-----5862.75㎡
[主要用途]-----高齢者センター、ケアハウス、デイサービス

長岡駅から真西に延びる道路は大手大橋で信濃川と直行する。そのもとに建設された健康の駅なおかは長岡市にとって初めての複合型福祉介護施設としてのPFI事業であった。長岡市の川東と川西を分けるクロスポイントでもある。同時に肉体的には老人でも、精神的、経験的には豊人である。老人と豊人が象徴的にクロスするポイントでもある。(元々、介護施設を設計する時の重要なコンセプトである。)



思考挑戦しただけなのかもしれない。



[タイトル]-----ショットバー(バリエテ2)
[建設地]-----新潟県長岡市南七日町
[竣工年]-----1998年
[構造]-----鉄筋コンクリート造2階建
[規模・面積]-----111.40㎡
[主要用途]-----飲食店

1998年竣工したショットバー「ラ・バリエテ」。構造はいたってシンプル!ボックスタイプのRC壁式構造である。水平力は外形のRCボックスで対応。鉛直荷重はRC壁と併用した二本の大丸太柱で対応。マッサとリニア構成の二つの対比は美しい。ハサギと共演したり、笠地蔵になったりと試行錯誤である。



La Variete

LA VARIETE

四角を回転させ少々圧縮を加えると菱形になる。四角はスクエア！菱形はダイヤモンド！



[タイトル]-----サポートセンター川崎(ツウイング)

[建設地]-----新潟県長岡市川崎

[竣工年]-----2012年

[構造]-----木造2階建

[規模・面積]-----1203.4㎡

[主要用途]-----ユニット型特養、小規模多機能、地域交流室、在宅支援型住宅

2012年竣工したサポートセンター川崎(地域密着型複合老人介護施設)。堅苦しい四角四面のデザインも角度を45度振ってやり少し力を加えると菱形が誕生する。スクエア(老人)からまさにダイヤモンド(豊人)への変身である。当施設のデザインモチーフはそのままダイヤモンドで、至る所にちりばめられている。



一流と言われている人ほど粘り強いのである。いやいや、粘り強いから一流なのだと言った方が良いのだろう。センスがあるない？は別次元。あるとすれば粘りのセンスである。建築をデザインするだけの問題ではなく、営業にも言える。この粘りが実は対する建築主様には一生懸命と映るのである。交友関係もそうである。しつこさだけだと閉口されるが粘り強さは感動モノである。



[タイトル]-----スケッチで塗り込められたロールトレベ
[制作年]-----1977年
[素材]-----ロールトレベ
[目的]-----スケッチ

私の設計する時のスケッチキャンバスはロールトレベそのままである。ひとつのプロジェクトは切り離さないことでそのデザイン過程に血を流し続けたいと思いついてきたからである。思考継続である。時には幾重にも重ねながら手に筆を考えさせた。もつとも期待される形が必ず生まれ出ることを信じているからでもある。

外部・控室前 = 屋外空間の想定
 サービス前
 ランドスケープ

管理空間に侵入する非管理空間

中間項

階段と板状木能合(塔)

塔の多様性

・内部と外部空間の融合

・サービス
 階段 エレベーター
 換気、採光

休憩室
 展望台

・ホスラー、展示映像モニター
 エレベーターランドリ

考案
 領域の設計

(管根) テント スペース

外部空間と内部の交差点

通路

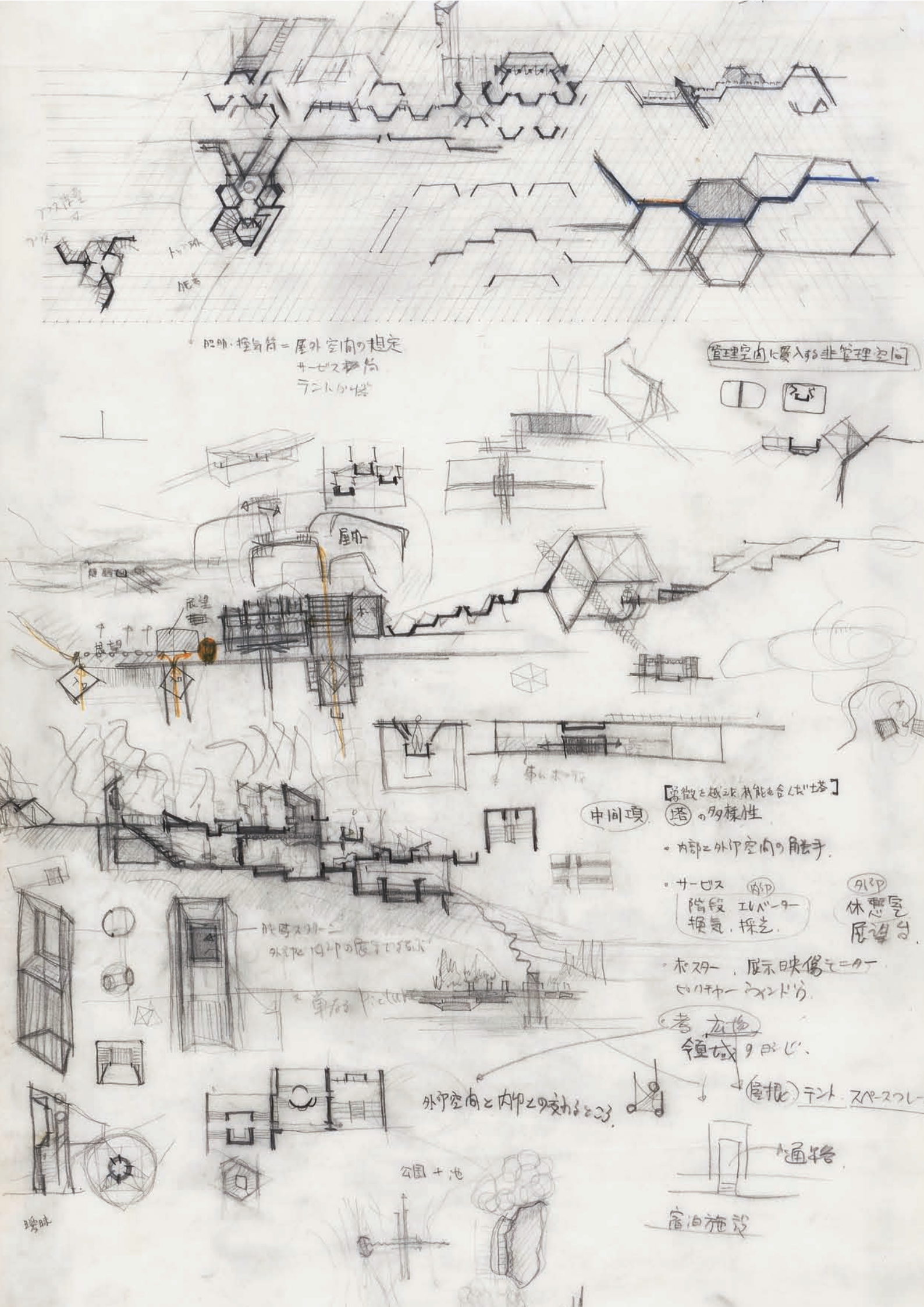
宿泊施設

公園 + 池

展望

眺望スロー
 外部と内部の融合

単体 Picture



真理はあなたを自由にする!(真理はシンプル)



[タイトル]-----1974年12月30日の誕生日祝に頂いた口語訳聖書
[発行所]-----日本福音協会
[発行年]-----1974年

1966年は初めて聖書・バイブルとの出会った年!私が高校2年生の時であった。「はじめに言葉ありき」は強烈で、その後の創作活動に大きな力と慰めを与えてくれた。その根底には「真理はあなたを自由にする!」(ヨハネによる福音書8:32)があった。「右の頬を叩かれたら左の頬を出しなさい」は自分にはできない言葉として何時までも残る。

タカモクの社歴は63年、私と同じ年である。



[タイトル]-----高田材木店製材工場風景。
地元の山から伐り出された丸太の上で一服する若い衆。
奥に機名サフラン酒の蔵が見える。

[場所]-----新潟県長岡市摂田屋
[年月日]-----1960年

1949年に高田材木店が創業したタカモクは、63年前に私のおやじが高田材木店として創業した会社である。私はこの年に生まれた。だから会社の年は63才であり、私も63才。かつては製材工場として土場には沢山の丸太が横たわっていた。現在はプレカット工場として活躍している。仕事は地味だが変身し変身して事業継続している。



そもそも融雪設備の歴史は大変短い。むしろ、三国街道は屋根から下された雪をそのままにして不便をしていた、かつての雪国の都市生活を偲ぶには欠かせない要素としてとらえる方が良いように思う。



[タイトル]-----喫茶店(多間里場:たまりば)
[建設地]-----新潟県長岡市青葉台
[竣工年]-----1996年
[構造]-----木造2階建
[規模・面積]-----130.39㎡
[主要用途]-----飲食店

1996年に長岡ニュータウンに完成した第一棟目の喫茶店の名は「多間里場(たまりば)」。雪国の風物詩にカマクラがある。大雪が屋根に埋まったら家自体がそっくりカマクラになる様にデザインした。夏にも基礎部の小さなカマクラが雪国を偲ばせる。夏でもここは雪国!



豪雪は敵であると一蹴してしまうことが出来ないのは醸造の町の宿命である。文化として捉えれば豪雪は豊かな水の源!大豊作に導き、豊かな伏流水は醸造の町を作り銘酒が生まれてきた。安易な融雪設備の設置は如何なものであろうか?



[タイトル]-----冬の風物詩。稲の切り株に積もった雪。

「樹氷ならぬ、稲氷」の美しい芸術。雪の晴れ間の散歩途中で撮影した雪の造形。稲の切り株をおおった樹氷ならぬ稲氷である。何気なく撮った写真が私に語り始めた。



自然力には謙虚な姿勢が大切である。



[タイトル]-----段床の家(スノーピラミッドハウス)

[建設地]-----未定

[竣工年]-----1990年発表

[構造]-----RC併用木造2階建

[主要用途]-----和雪住宅! 楽雪住宅!

1990年に提案した段床の家「スノーピラミッドハウス」。豪雪地では冬期間は1Fの採光がとりにくい、そこで高床式住宅がもてはやされた。歩行者にとっては無機質なRC壁に囲まれたり、高床階段は一か所で上下を接続することで結果として近隣とのコミュニティーの濃度を低めることになりがちである。四周全面に階段を設置することで大地と接続するのである。雪が積もればファミリーゲレンデが誕生することだろう。



耐雪住宅への挑戦は1987年の第一号やじろべえ住宅発表からであるから25年の歳月が経った。



[タイトル]-----やじろべえ住宅
[建設地]-----新潟県長岡市花園
[竣工年]-----1987年
[構造]-----木造耐雪構造
[規模・面積]-----152.36㎡
[主要用途]-----住宅(木造耐雪住宅)

長岡は2.5mの積雪を数年続けた。仕事から定期的に転勤するクライアントからの依頼であった。木造の耐雪住宅を希望されていたが、参考になるデータがない。雪国では雪下ろしは当たり前の諦観の境地にあった。木造で耐雪型果舞づくりへの期待が高まってきた。目標を決めたら次に試行錯誤が始まる。雪降ろしたわみセンサーを試作し、めり込みの様々なデータをとるために数多くの試験もなされた。



屋根雪面積100m²(約30坪)に2m積雪が載った場合、雪の総荷重は60トンである。



[タイトル]-----多塔屋根の家
[建設地]-----新潟県長岡市川崎
[竣工年]-----1993年
[構造]-----耐雪+融雪+落雪=ハイブリッド屋根、木造2階建一部RC
[規模・面積]-----191.03㎡
[主要用途]-----住宅

雪による被害は多発している。屋根雪は積雪深でなく積雪荷重で捉えなければならない。建築基準法では雪の比重を0.3、実際にその年の雪を計測すると0.36あった。そこで屋根雪にはハイブリッドで対応することとした。平面中心部は耐雪一部融雪式であり、周辺部は落雪型とした。



雪が降り始める前に花は「氷の華」、ちらほら降る雪は「風花」



[タイトル]-----長岡ルーテルキリスト教会(ゆきん子ペンギン)
[建設地]-----新潟県長岡市三和町
[竣工年]-----1992年
[構造]-----RC+木造2階建て
[規模・面積]-----299.92㎡
[主要用途]-----礼拝堂

1992年竣工「パナキュラーアーキテクチャー」。雪国ゆえに雪国のデザインがある。積もった雪が美しい形をつくったり、雪対策時の形であったりする。雪の結晶自体もとてもきれいで、ちらちら舞い落ちる雪にも風情がある。それをゆきん子ペンギン教会に照明デザインしてみた。「あなたの罪は緋の様に赤くとも雪のように白くされるのである」(イザヤ)



山から木を伐り出す。冬には馬にそりを引かせた。



[タイトル]-----山から伐採した丸太を運搬する風景
[場所]-----新潟県長岡市逆谷(旧三島郡)
[年月日]-----1957年

山の木を伐採して製材する。巢舞づくり用の建築資材にするまでにはとても大難儀であった。満足な山道がないために冬の雪上を櫓で出した。櫓の引き手は人力から馬力、そして耕耘機まがいのものであった。車で運搬するまでには今少々の時間が必要とされた。現在は機械化が進んでいるが、まだ半世紀前の話である。



雪国の住宅にとって一番怖いのは冬季間に発生する地震である。



[タイトル]-----ムクの美しさハイブ97
[建設地]-----新潟県長岡市青葉台
[竣工年]-----1997年
[構造]-----木造2階建一部鉄筋コンクリート造(ハイブリッド工法)
[規模・面積]-----115.10㎡
[主要用途]-----住宅

「建築は強・用・美の総合芸術である!」と紀元前20年頃にローマの建築史家ヴィトルヴィウスは言った。私達は多くの自然災害にいつも囲まれている。単に強ければよいとは言わない。適度な採光も必要である。時に部屋の設えも変えたい時が来るかも知れない。地震力は中心位置に設置されたRCコアで対応させて外部開口部をフリーとすることが出来る。



雪のつくる造形はとても面白い。



[タイトル]-----リプチの森の水門柱のヘアーフッションショー
[場所]-----新潟県長岡市撰田屋リプチの森
[年月日]-----2010年～2012年

舞い落ちた雪は湿度によってざらめ雪からしまり雪そして新雪パウダー雪と様々な特徴を持っている。屋根雪が風の影響で時にはとても大きな雪庇を作り出す。(偏荷重は危険である)2006年に長岡市撰田屋屋内に開発されたリプチの森は春夏秋冬通じて自然のアートキャンパス。冬は水門柱の頭上でとても楽しく面白いヘアーフッションショーが始まる。

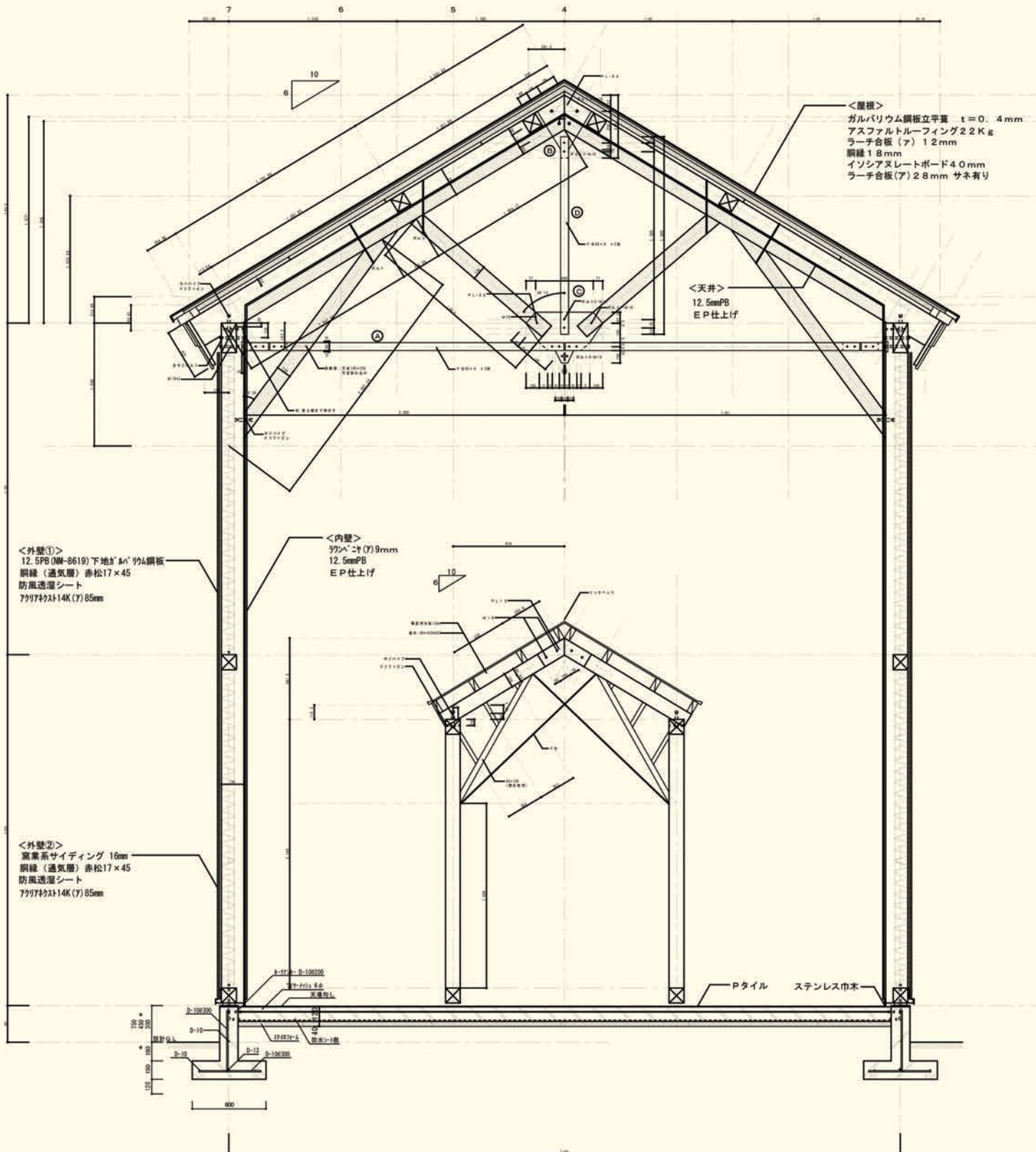


何気ない一言が人を動かす。私を動かす。



[タイトル]-----APM蔵
[建設地]-----新潟県長岡市宮内
[竣工年]-----2013年
[構造]-----木造2階建
[規模・面積]-----98.39㎡
[主要用途]-----倉庫(ポスター他)

その人にとっては普通でも他者から見たらかなり個性的なものが沢山ある。APMがリノベーション・開設したのは2009年7月。そして4年後宮内駅前にAPMと姉妹になるAPM蔵が誕生する。館長の秋山孝氏が言った。「高田建築事務所の特徴である構造デザインを様々な条件の中でも見せてほしい」がテーマであった。



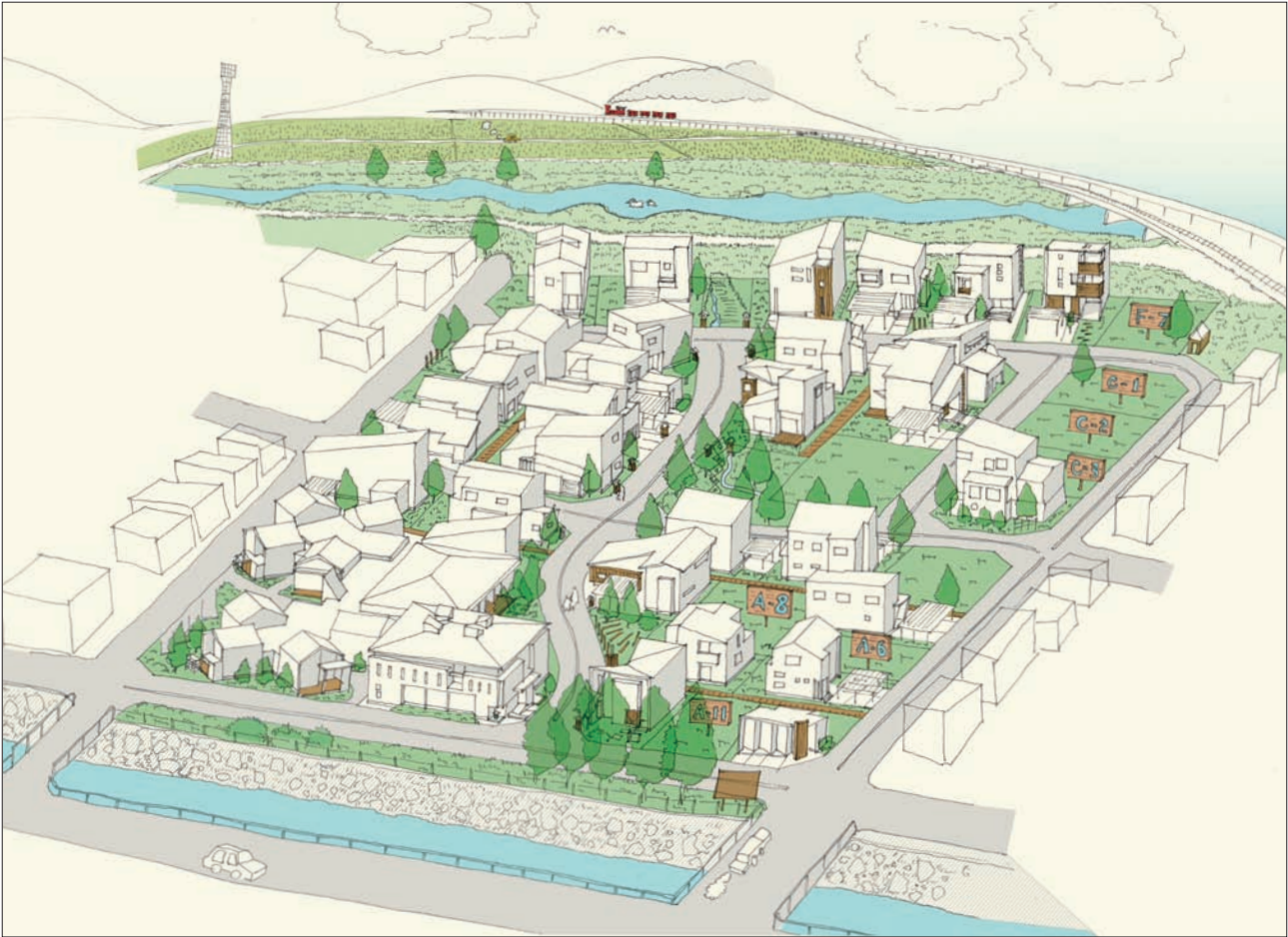
APM蔵様

橋の名前はダイレクトに「撰田屋橋」である。結果そのまま「せったやばし」と読む。



[タイトル]-----リブチの森間知づくりプロジェクト
[建設地]-----新潟県長岡市撰田屋
[竣工年]-----2006年～現在進行中(2013)
[構造]-----メインは木造2階立て
[規模・面積]-----1.6ha、48区分譲地
[主要用途]-----住宅、店舗、福祉施設

長岡市撰田屋5丁目には二つの川が流れている。一つは一級河川でもある太田川が町の西側外周部をなぞっている。もう一つは農業用水の福島江である。町の真ん中を南北に流れ町内を東西に分断している。町内会挙げての長い間の請願橋である。橋の長さ(11m)より橋幅(12m)の方が広いが2012年春に完成した。



三代夫婦の渡り初め。



[タイトル]-----せったやばし
[建設地]-----新潟県長岡市摂田屋
[竣工年]-----2012年
[構造]-----RC造(PCボックス)
[規模・面積]-----W12m、L11m
[主要用途]-----橋

2012年にリブチの森入口の橋が架け替えられた。名前そのまま摂田屋橋。三代夫婦の渡り初めに指名された我が家はその日は朝から緊張気味であった。自然災害でしょっちゅう流された橋が三代続いた家族の様に長い間維持されることを祈念しての渡り初めの儀式であると聞いた。思わず健康でありますように!と祈る。



あなたにとっての狭き門とは？



[タイトル]-----サルギナトベール橋
[設計]-----ロベルト・マイヤール
[建設地]-----スイスアルプス
[竣工年]-----1930年
[構造]-----3ピンアーチ
[規模・面積]-----3.5m×92m
[主要用途]-----橋
[撮影]-----斎藤公男 日本大学名誉教授(1972年)

一般的には高校・大学は自分の意志で決めるものである。私は商業高校も日大理工学部建築学科も親父が決めてしまった。素直に従った自分が偉い!?自主性が無いだけ!?しかしその門はとても狭い。サルギナトベール橋はスイスの渓谷に掛かる橋幅僅か3.5mスパン92mの橋である。人生と同じく狭き門を渡ると次の新しい景色を楽しむことが出来る。



額に汗する私は正に無我夢中!



[タイトル]-----舞・居場所がしの旅
[発行所]-----新潟日報事業社
[発行年]-----2002年

2002年12月30日に上梓させて頂いた初めての書籍「舞・居場所がしの旅!」(新潟日報朝刊の新潟・まち・住まい考で一年半にわたり掲載)居場所論や住まいづくりの知恵が沢山ちりばめられている。間違いなく汗を流しながらの68週分のエッセイ集である!

高田清太郎
著

楽す
舞まい
[居場所さがしの旅]

新潟日報事業社



時間と共に精神的にも思想的にも益々高揚するものである。



[タイトル]-----秋山孝ポスター美術館長岡 (APM)
[建設地]-----新潟県長岡市宮内
[竣工年]-----2009年
[構造]-----鉄筋コンクリート造、一部木造2階建
[規模・面積]-----141.58㎡
[主要用途]-----美術館(北越銀行宮内支店からのリノベーション)

2009年に完成したAPMは大正14年に建築された北越銀行宮内支店のリノベーションであった。当時賑わいを見せていた宮内商店街の中心部に位置していた銀行は街の象徴でもあったはずである。時代と共に姿を消していくもの益々光り輝くもの様々である。いずれにせよそれらを併せ持つ記憶の空気は私達の思索散歩に高揚感を添えてくれるのである。



生きてきた時間は多くの出来事と出会い多くの風景を見てきた。多くの事を考え、時に喜怒哀楽に身を寄せた。さわやかに感動する時間を共有できる人も、その何倍何十倍も割り切れない時間を共有できないまま背負ったことであろう。



[タイトル]-----喜多町診療所(フリースピタル)
[建設地]-----新潟県長岡市喜多町
[竣工年]-----1998年
[構造]-----鉄骨造
[規模・面積]-----1497.17㎡
[主要用途]-----診療所

生老病死、人間の避けることのできない道の様である。人間の生産性は同時にエンタルピー(廃熱)の増大を止めることは出来ない。生と死は一对であり、建設と廃棄も一对である。喜多町診療所は一般内科と併設して100床のベッドを備えている人工透析クリニックである。長時間の拘束ではあるが、再生への喜びを噛みしめる空間となってくれることを祈念して設計コンペに参加させて頂いた。

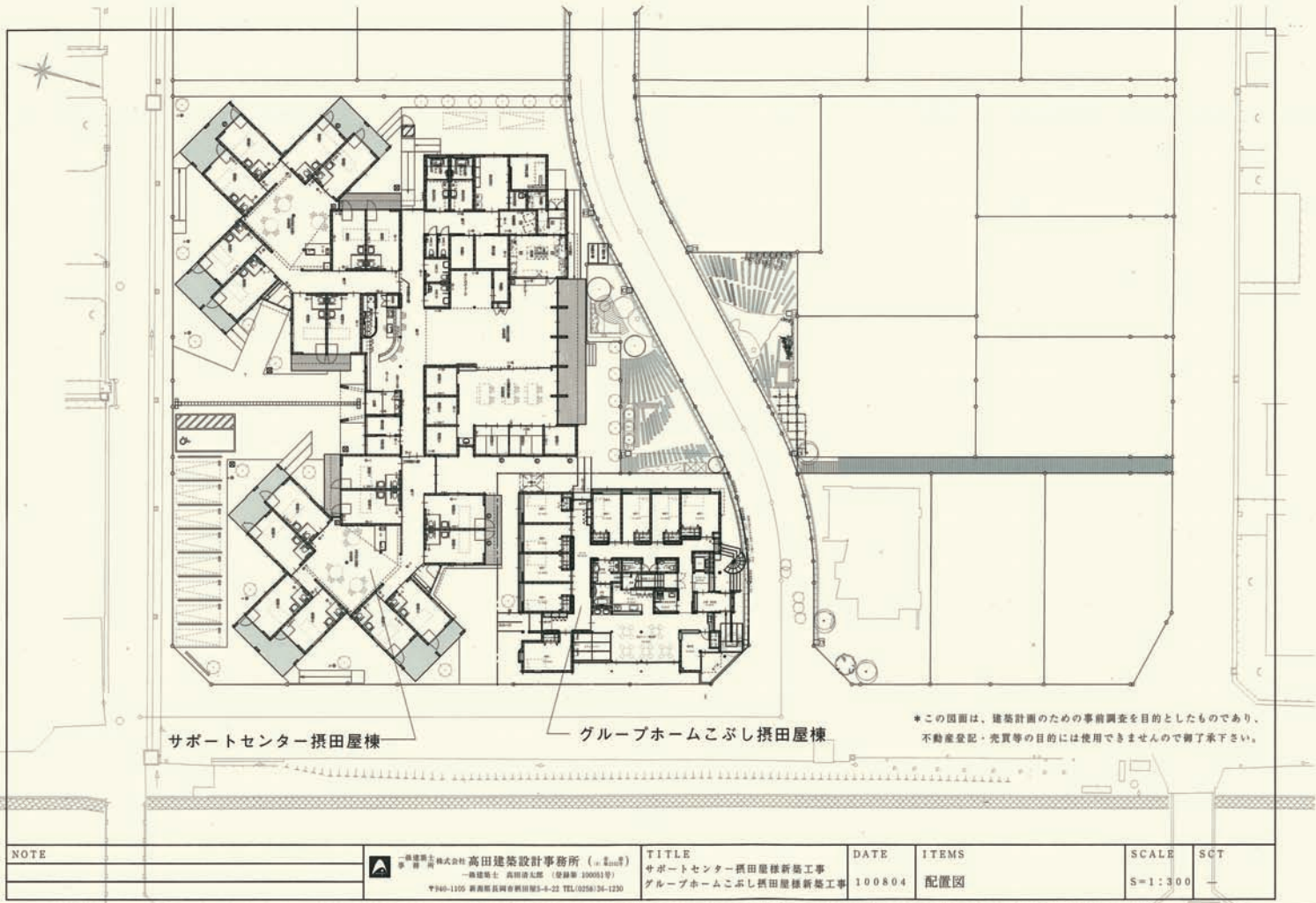
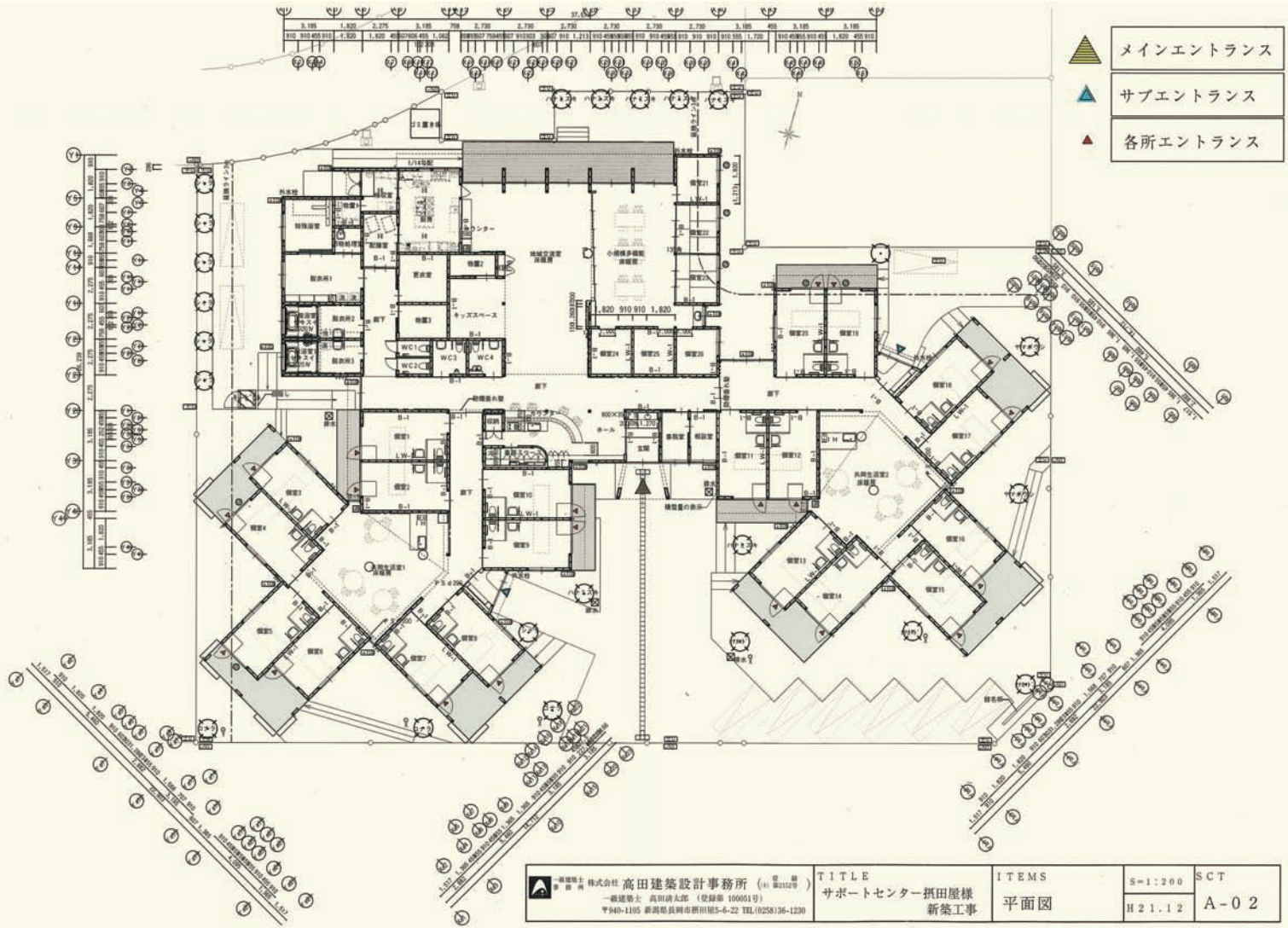


思考し、思索し、挑戦し、人生と言うタブローを作り上げていくのである。とても豊かな人である。



[タイトル]-----サポートセンター 摂田屋(ブチリブチ)
[建設地]-----新潟県長岡市摂田屋
[竣工年]-----2010年
[構造]-----木造平屋
[規模・面積]-----972.29㎡
[主要用途]-----複合型高齢者介護施設(ユニット型特養、小規模多機能、地域交流室)

思考し、思索し、挑戦した分描く夢の数は多くなる。正・反・合の弁証法的思考もタブローを作り上げる一つの思考法でもある。そして何度も繰り返しながら練り上げていく。同じ形でも伸縮させたり、角度を振ったりすることでイメージが異なってくる。常にバランス(アンバランスのバランス)を取りながら形に息吹を与え続けたいものである。



歴史観はその渦の真っ只中にいると分かり辛く、ちょっと距離を置いてみた方が良く見える。



[タイトル]-----はさ木の家
[建設地]-----新潟県長岡市前島
[竣工年]-----1989年
[構造]-----木造2階建
[規模・面積]-----266.34㎡
[主要用途]-----住宅(高田清太郎の母の実家)

様々な距離を取ることはとても大切だ。距離感(大きさ)は居方(方向)と並んで快適な居場所を決めるためのベクトル表示でもある。全体ゾーニングスケッチから始めたプロジェクトはディテールに思いはせることで空間にエネルギーを与える。私の御袋の実家は前川である。東山を背にハサギに掛けられた稲穂の香りはかつて倉造りの佇まいを偲ぼせる。時間との距離感も忘れていなかった。



一日一生、一日一語、一日一話、一日一章、一期一会。



[タイトル]-----ススキに積もった雪
[場所]-----新潟県長岡市撰田屋
[年月日]-----2000年頃

私達の目は瞬間ショットを記憶する。その記憶の繋がりが合成されると一つのドラマが生まれ出る。私達の歴史の中には無数の史実がある。その中からいくつかをピックアップして光を当て組み立てていくとそこに一つの歴史小説が生まれる。同じように別の組み合わせをすると別の角度からの世界を見ることが出来る。ススキに降り積もった雪の分子はまさに一回性である。それだけに強烈なメッセージでもある。



永遠は遙か彼方の遠方にあるのではなく今日一日の連続に存在する。



[タイトル]-----リバーサイドプロジェクト(未完成)
[場所]-----新潟県長岡市千秋が原
[年月日]-----2005年
[主要用途]-----複合型福祉施設

今の連続が永遠である。だから今を喜び・祈り・感謝することの大切さがある。2005年に与えられたプロジェクト(未完成)があった。生命の川計画である。場所は千秋が原である。スフィンクスの謎かけが蘇る。「朝は四足・昼は二本足・夜は三本足の動物はなーに？」であった。当プロジェクトは認定こどもえんから研修・介護福祉施設群の複合施設であった。アンモナイトは更に永遠への時の流れの壮絶さを伝えんとしている。

< BE GOING TO >

・老人から豊人

・Design = De + Sign

・Zone&Conector

・建築は、強・用・美+2C(Cost+Concept)

< ING >

生命の川

Project

・流れ

光の川

幼

音の川

壮

香の川

心の川

味わいの川

温もりの川

・間知(快適な居場所は、距離感を大切に)づくり

< ED >

< CONTINUE >

・衣食住

・居場所探しの旅

・巢舞(巢は形、舞は想い)づくり

高田 清太郎 Seitaro TAKADA

株式会社 高田建築事務所・代表取締役、秋山孝ポスター美術館長岡・サポーターズ倶楽部会長

1949年 新潟県長岡市生まれ。日本大学理工学部建築学科卒業。1976年 現事務所を設立。

1996年～97年 新潟大学工学部建築学科非常勤講師、1996年～97年 県立新潟女子短期大学生活学科非常勤講師、2011年～現在 新潟大学大学院自然科学研究科非常勤講師。構造デザインを生かした空間づくり、物語性のある住まいづくりを実践。間知づくりプロジェクト「ミトロの森」、「リブチの森」、「柿木通り」、「陽光台」。

【受賞】1991年～2013年 新潟県建築士事務所協会設計コンペにて「ドラえもん住宅」「ゆきん子ペンギン教会」「ホスピデンス」「ファサマンド」など風土性ある独自の建築で最優秀賞、優秀賞、奨励賞、32作品受賞、同コンペ全国大会にて奨励賞6作品受賞、2004年 長岡市景観行為優良賞「ふくちゃん保育園」、まちなみ住宅百選奨励賞「雪国フォルクスハウス」、2005年 日本建築学会北陸支部 北陸文化賞 間知づくりプロジェクト「ミトロの森」、2010年 長岡市都市景観賞「秋山孝ポスター美術館長岡」、他各種設計コンペ入賞。

【審査員】2003年～04年、2007年～08年、2010年～12年 日本建築学会北陸支部建築活動審査部会委員

【著書】2002年「巣舞 居場所さかしの旅」(新潟日報事業社)、2004年「我が家が一番 放題紙の巣舞にすんで」(新潟日報事業社)、2006年「撰田屋ものがたり」リブチの森・間知づくり

【新聞連載】2000年8月～2002年3月 新潟日報朝刊「新潟・まち・住まい考」にコラム掲載(68回)

【学会発表】1988年 日本雪水学会、日本雪工学会にて「やじろべえ木造耐雪住宅」、1992年 世界雪工学会にて「やじろべえ木造耐雪住宅」、1995年 日本建築学会にて 床重量衝撃音／遮音工法「オットセイ君」、1997年 日本精神病院精神医学会にて「ホスピデンス棟」(精神病院における今後の開放型治療棟の在り方についての提案)

<http://www.takada-arc.com/>



"秋山孝が選んだ30の金言・高田清太郎の建築デザイン哲学展"

発行日 : 2013年4月20日

発行者 : 秋山孝

発行所 : 秋山孝ポスター美術館長岡

〒940-1106 新潟県長岡市宮内 2-10-8

Tel, Fax : 0258-39-1233

E-mail : info@apm-nagaoka.com

URL : <http://apm-nagaoka.com>

著者 : 高田清太郎

編集 : 秋山孝

デザイン : 秋山孝、御法川哲郎

印刷所 : 三条印刷株式会社

※無断で複写、複製および使用を禁ず。

"30 Golden Sayings・Seitaro Takada's Architectural Design Philosophy"

Date of issue : 2013.04.20

Publisher : Takashi Akiyama Poster Museum Nagaoka

2-10-8 Miyauchi Nagaoka-city Niigata 940-1106 Japan

Tel, Fax : 0258-39-1233

E-mail : info@apm-nagaoka.com

URL : <http://apm-nagaoka.com>

author : Takada Seitaro

Edit : Takashi Akiyama

Design : Takashi Akiyama, Tetsuro Minorkawa

Printed in Sanjo Printing Co., Ltd.

© 2013 Takashi Akiyama, Published in Japan by Takashi Akiyama Poster Museum Nagaoka.

All right reserved. No part of this brochure may be reproduced in any form or by any means, electronic or mechanical, including photocopying or recording, or by any information storage and system, without permission in writing from the publisher.

[造本仕様]

総頁数:64頁/判型:A4判/製本:並製・かがり綴じ、両袖小口折り/表紙:4C、北越紀州製紙・パーフェクトW 菊判13.5kg、マットPP加工/本文:4C、北越紀州製紙・ミューマット 菊判93.5kg



